

外国語活動 学習指導案

学校名 海田町立海田東小学校
授業者 HRT 渡邊 圭
JALT 古田 奈穂

- 1 日時 平成28年5月31日(火) 第5校時
- 2 学年 第6学年2組 男子17名 女子14名 計31名
- 3 単元名 Dream 6-3 できることを紹介しよう
<Hi, friends! Lesson 3 I can swim. (スポーツ, 動作)>

4 単元について

- 本単元は、can を用いてできることやできないことを言ったり、できるかどうかを尋ね合ったりする活動を通して行いながら、自分ができることを伝えたい、友だちができることを知りたいというコミュニケーションへの関心を高め、それを適切な表現で伝えようという意欲を引き出していくことができる単元である。

助動詞 can を用いた表現は、中学校英語科では第1学年教科書(SUNSHINE ENGLISH COURSE 開隆堂) PROGRAM 8 で学ぶ題材である。中学校で学ぶ助動詞の初出であり、小学校で学ぶ I, you に加え、He などの様々な主語を用いている。本単元で正しい語順に慣れ親しませることが、中学校での理解に有効につながる。

- 本学級の児童は、毎週1時間(モジュール2回)の外国語活動に意欲的に取り組んでいる。授業の導入時には、日にち、曜日、天気などを繰り返し尋ねることで、表現に慣れ親しみ進んで答えるようになっている。さらに、学習した内容を使って、話したり聞いたりする活動や、文字を書いたりする活動に非常に意欲的に取り組んでいる。「友だちの誕生日を調べよう」の単元では、学習した数字の数え方や、「th」の発音や規則性といった序数を表す言い方を使って、進んで発音する姿が見られ、日付の言い表し方や誕生日をたずねる表現を使って、友だちに誕生日をたずねたり答えたりしていた。

学級の6割の児童は学習した表現を使ってコミュニケーションをとることに楽しさを感じる一方で、自分の考えを英語で表現することに抵抗を感じる児童もいる。さらに知らない単語や表現などを身ぶりや手ぶりなどを用いて伝えようとするのはほとんどなく、担任や JALT にすぐに尋ねることが多い。

- 指導に当たっては、モジュールAで動作を表す表現や、can を用いた表現を繰り返し「聞く」「話す」練習を数多く設定し、モジュールBでその語彙や表現を使用した自己表現活動やコミュニケーション活動を設定することで、児童の本単元における語彙や表現の「慣れ親しみ」の充実を図る。そして単元末のじっくりとコミュニケーションを図る時間に、「私のできることを Show & Tell で紹介し、それを用いたクイズを行うことで、英語で自分のことを伝えたい、友だちのことを知りたいという意欲を喚起する。また、語句や文への慣れ親しみを深める指導の工夫として、単語や表現を4線上に表記したカードで並べて提示することで、単語の形の正確な把握や、語順への気付きを促す。

児童が自信をもって英語を用いて交流を行うための工夫としては、全体交流を行う前にしっかり

児童同士のペアトークやグループ活動などを取り入れる。そして自分と友だちの考えの共通点や相違点などに気付かせることで、自分の考えを伝えることの必要性を感じさせたり、相手に伝わりやすい表現の仕方を考えさせたりする。

さらに、今年度は学級担任の英語使用量の向上を目指した取組を進めており、ジェスチャーや ICT 教材などの視覚支援を用いながら、学級担任が児童に伝わる英語を用いながら活動を進めている。学級担任自身が英語をより多く使って指導を行おうとする姿を見せ、児童が間違いを恐れず英語で話すことのできる雰囲気作りを意識して進めていく。

5 単元の目標

- 積極的に友達に「できること」を尋ねたり、自分の「できること」や「できないこと」を答えたりしようとする。 【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 「できる」「できない」という表現に慣れ親しむ。 【外国語への慣れ親しみ】
- 英語と日本語とでは、言葉の使い方に違いがあることを知る。 【言語や文化に関する気付き】

6 単元の評価規準

- 「できること」や「できないこと」について、進んで尋ねたり紹介したりしている。
- 動作を表す語や「できる」「できない」という表現を聞いたり言ったりしている。
- できるかどうか尋ねたり答えたりしている。
- 英語と日本語とでは、言葉の使い方が違うことに気付いている。

7 主な使用表現

- ・ I can / can't ~. Can you ~? Yes, I can. / No, I can't.
- ・ 動詞 (play, swim, cook, ride など), 楽器名 (piano, recorder, guitar など)
スポーツ (basketball, soccer, baseball, badminton, table tennis など), 遊び (unicycle など)

8 単元計画 (5時間【(1~3時) 6モジュール+ (4, 5時) 2時間】)

時	目標と主な活動	評 価				
		コ	慣	気	評 価 規 準	評 価 方 法
1	動作を表す語や「できる」「できない」という表現を知り、言語にはそれぞれに違いがあることに気付く。			○	・ 英語と日本語とでは、言葉の使い方が違うことに気付いている。	行動観察 振り返りカード
	A					

	<p>○「できる」「できない」という言い方を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先生のできることを、できないことを知ろう。」 ・【Listen】 あいとひかるのできることを、できないことを聞き取ろう。 ・「この人ができることを言ってみよう。」 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・動作を表す語や「できる」「できない」という表現を聞いたり言ったりしている。 	
2	<p>動作を表す語や「できる」「できない」という表現に慣れ親しみ、できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現を知る。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・動作を表す語や「できる」「できない」という表現を聞いたり言ったりしている。 ・できるかどうか尋ねたり答えたりしている。 	行動観察 振り返りカード
	<p>A</p> <p>○できるかどうかを尋ねたり答えたりする言い方を知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この人ができることを言ってみよう。」 ・「できるかどうかを尋ねたり答えたりする言い方を練習しよう。」 ・「私はだれ？クイズをしよう」 ・【Chant】 Can you swim? 			
	<p>B</p> <p>○できるかどうかを尋ねたり答えたりしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・【Chant】 Can you swim? ・「先生のできることを予想して、尋ねてみよう。」 ・【Activity1】「できることを、できないことを予想して、ペアでインタビューしよう。」 			
3	<p>「できる」「できない」という表現や、できるかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しみ、友達と積極的に交流しようとする。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・できることやできないことを言ったり、できるかどうか尋ねたり答えたりしている。 ・「できること」や「できないこと」について、進んで尋ねたり紹介したりしている。 	行動観察 振り返りカード
	<p>A</p> <p>○友だちにできるかどうかをインタビューしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「できるかどうかを尋ねたり答えたりする言い方を練習しよう。」 ・【Activity2】「友達にインタビューして、サインをもらおう。」 ・「Show&Tell で発表する内容の準備をしよう。」 			
	<p>B</p> <p>○ Show & Tell の準備をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「発表の練習をしよう。」 ・「グループで発表のリハーサルをしよう。」 	○		
4	<p>I can ～.を使って、積極的に自分ができることを紹介しようとする。</p>	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「できること」や「できないこと」について、進んで紹介している。 	行動観察 振り返りカード
	<p>○自分ができることを Show&Tell で紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたしのできること(Show&Tell)」 			

5	I can ～.を使って、積極的に自分ができることを紹介しようとする。	○		・「できること」や「できないこと」について、進んで紹介している。	行動観察 振り返りカード
	○自分ができることを Show&Tell で紹介しよう。 ・「わたしのできること(Show&Tell)」 ・「 Who am I? (私は誰でしょう?)クイズ」				

9 本時の学習

(1) 本時の目標

動作を表す語を知り、言語にはそれぞれに違いがあることに気付く。【言語や文化に関する気付き】

(2) 本時の評価規準

英語と日本語とでは、言葉の使い方が違うことに気付いている。

動作を表す語や「できる」「できない」という表現を聞いたり言ったりしている。

(3) 主な使用表現

I can / can't ～. Can you ～? Yes, I can. / No, I can't.

(4) 準備物

絵カード (動作), 音声教材 (バナナじゃなくて banana チャンツ CD), デジタル教材 (Hi, friends! 2)

(5) 本時の学習展開

第1-1時 モジュールA (20分)

過程	学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した 児童への指導の手立て ★めざす子どもの姿	評価規準 [評価方法]
導入	○挨拶をする。 ○本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">動作を表す言い方を知ろう。</div>	◇日付を言うときに、前単元で学んだ 序数の言い方を思い出させる。	
展開	○【Chant】 マラソンじゃなくて marathon (『バナナじゃなくて banana チャンツ』より) ○「ジェスチャーゲーム」 ・指導者が Hi, friends! 2 P.10 に出てくる 動作をジェスチャーで行い、何を しているのか当てる。 ○「動作を表す言い方を知ろう。」 ・絵カードを見ながら、いろいろな 動作を表す表現を言う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">★【めざす子どもの姿】 ・英語と日本語では、動作を表す言葉の 使い方が違うことに 気付き、はっきりとした声で動作を表す 表現を言っている。 I play soccer. I play the piano. I swim. I cook.</div>	◇スポーツを表す英語表現の、カタカナ語との発音の違いに気付かせる。 ◇スポーツでも play を使うものと、swim のように動詞だけで言うものがあることや、楽器を演奏することを表現するときは the をつけることなどに気付かせる。 ◆黒板に絵と文字を示したカードを貼り、言葉の使い方に気付かせる。	・英語と日本語とでは、言葉の使い方が違うことに気付いている。【気】 [行動観察・振り返りカード]

まとめ	<p>○本時の活動を振り返る。</p> <p>○挨拶をする。</p>	<p>◇児童の英語を使おうとする態度でよかつたところを肯定的に評価する。</p>	
-----	------------------------------------	--	--

第1-2時 モジュールB (25分)

過程	学習活動	指導上の留意事項 (◇) ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て ★めざす子どもの姿	評価規準 [評価方法]
導入	<p>○挨拶をする。</p> <p>○本時のめあてを知る。</p>	<p>◇日付を言うときに、前単元で学んだ序数の言い方を思い出させる。</p>	
展開	<p>○【Chant】 マラソンじゃなくて marathon (『バナナじゃなくて banana チャンツ』より)</p> <p>○「先生のできること、できないことを知ろう。」 ・指導者がイラストや実物、写真などを見せながら、I can ～. I can't ～. というのを聞き、できることやできないことを予想する。 ・can, can't を用いた表現の練習をする。</p> <p>○【Listen】 あいとひかるのできること、できないことを聞き取ろう。 ・Hi, friends!2 P.11 の音声教材 (あい・ひかるのみ) を聞いて、紙面の絵を登場人物ができるものは○で、できないものは△で囲む。</p> <p>○「この人ができることを言ってみよう。」 ・有名人やキャラクターの写真を見て、その人物ができることを考え、 “I can ○○.” と発表する。</p>	<p>◇英語特有の発音やアクセントなどを意識させながら、一緒に言う。</p> <p>◇写真やジェスチャーから想像をさせて発表させる。 ◇can, can't を表情をつけたり強調して言うことで、意味や音の違いに気付かせる。</p> <p>◆聞き取りにくい児童には、繰り返して聞かせたり、ゆっくりと言ってやったりする。</p> <p>◇イチロー・錦織圭・浅田真央などスポーツ選手や芸能人、アニメキャラクターなど、児童の関心を引く写真を見せて、意欲的に発表させる。</p>	<p>・動作を表す語や「できる」「できない」という表現を聞いたたり言ったりしている。【慣】 [行動観察・振り返りカード]</p>
まとめ	<p>○本時の活動をふり返る。 ・振り返りカードを書く。</p> <p>○挨拶をする。</p>	<p>◇児童の英語を使おうとする態度でよかつたところを肯定的に評価する。</p>	

「できる」「できない」という言い方を知ろう。

★【めざす子どもの姿】
 ・はっきりとした声で、動作を表す語や「できる」「できない」という表現を言っている。
 I can play soccer.